

天命追求型

2024.6.26

人間の生き方には、西洋の成功哲学に代表される「目標達成型」とは別に、「天命追求型」というものがある。天命追求型とは、将来の目標に縛られることなく、自分の周囲の人を何よりも優先しながら、今、自分の置かれた環境でベストを尽くす。それを続けていくと、天命に運ばれ、いつしか自分では予想もしなかった高みに到達するという考え方である。そこでは、自分の夢だけを叶えるのではなく、周囲に喜びや笑顔を与える精神、つまりは志が優先される。

天命追求型の好例として、歴史上の人物である豊臣秀吉を挙げることができる。秀吉は、徳川家康、織田信長と比べて大きく違う点がある。家康や信長が殿様を父にもったのに対し、秀吉は農家に生まれたことである。農民の子である秀吉が、最初から天下統一を夢見たのだろうか。通説によると、秀吉は侍になるために織田家の門を叩いたということになっている。おそらく若き日の秀吉は、天下を取るなど考えてもいなかったに違いない。ところが、秀吉の人生はその夢を遙かに超えてしまう。

秀吉は、なぜ夢を超えることができたのか。秀吉は、最初は信長に雑用係の立場で仕える。雑用係は、もちろん侍の身分ではない。けれども、信長が秀吉を雇い入れたとき、きっと秀吉は、農民の自分に目をかけてもらえたことに胸を躍らせ、心から感謝したのではないだろうか。だからこそ、たとえ雑用係の仕事にも自分でできる工夫を施したのであろう。寒い日の朝、信長の草履を懐に入れて温めてから出した話は有名である。草履一つ出すにも喜んでもらえるようアイデアを加えたのである。やがて、足軽になってからも信長を喜ばせたいという思いは変わらず、一層の信頼を得て侍に、さらに侍大将、そして近江国、長浜城の城もち大名へと登り詰める。

秀吉は、最初から天下取りなど考えず、いつも、今ここに全力投球する生き方を貫いたのだと思う。自分の身の回りの人たちに喜んでもらえることを精一杯やっていった。その結果、周囲の応援を得て次々と人生の扉が開き、天下人へと運ばれていったのではなからうか。

豊臣秀吉と比較はできないが、天命追求型のような人生を歩んでいる人は多い。学校の先生は、最初から校長になることを目指して教員採用試験に挑むのだろうか。中には、そういう人もいるだろう。だが、ほとんどの人は、担任をして子どもたちと一緒に過ごしたいと思って先生になるのではないか。

幼稚園には、主任というポストがある。主任になると、担任はしなくなる。管理職ではないが、役割としては、小・中学校における教頭先生、教務の先生、事務の先生に近い。幼稚園の先生になる人が、最初からこの主任を目指しているとは思えない。

草履は温めないが、今までの活躍が認められ、上に立つことを望まれて、現在のポジションに就いている人も多いことだろう。それは、天命追求型なのかもしれない。天命なのだから逆らうことはできないし、逆らわない方がよい。導かれるままに進んだ方がよい。そうすることで、自分を成長させることができる。そして、いつの日か、自分が成長できていることを実感できる日がやってくる。